

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520448

研究課題名(和文) 近30年の台湾原住民族文学の発展と言語危機の中で作家達が見出す民族の未来像研究

研究課題名(英文) Research on the Future Image of Taiwan's Ethnic Groups Obtained from Writers Fixing their Eyes in the Development of Taiwanese Indigenous Literature and Language Crisis in the last 30 years

研究代表者

下村 作次郎 (SHIMOMURA, SAKUJIRO)

天理大学・国際学部・教授

研究者番号：20148670

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は平成23年度から25年度までの3年間、科学研究費補助金基盤研究(C)の助成を受けた。研究代表者の下村作次郎および連携研究者の魚住悦子は、90年代より台湾原住民文学研究に従事し、この間20余年にわたって積みあげてきた研究蓄積、さらに台湾原住民文学の創造者である原住民族作家および研究者との交流を活かし、国際シンポジウムやワークショップの開催、著作・翻訳書の出版、学会発表、講演、論文発表等、大きな成果をあげることができた。

研究成果の概要(英文)：This study received financial grant of academic subsidized based research(C) which spanned three years from 2011 to 2013. Beginning from the 1990's the representative researcher Sakujiro SHIMOMURA and collaborative researcher Etsuko UOZUMI were engaged in translation and research of Taiwan Indigenous literature. During this period utilizing the research accumulation of more than 20 years and through the interaction with indigenous writers who created Taiwan Indigenous literature and researchers, we held an international symposium and a workshop, published books, translations and articles, did conference presentation, gave lectures and so on. We were able to achieve noteworthy results.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・中国文学

キーワード：台湾原住民族 台湾原住民文学 長編小説 言語危機 民族の未来像 平埔族 台湾

### 1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は、下村作次郎が代表者として行った「台湾原住民族における言語環境の変化および言語転換(日本語から中国語へ)の実相」(平成20年度～平成22年度、科学研究補助金(基礎研究(C))を継承・発展させるべく取り組んだものである。

初年度は、台湾の原住民族作家や研究者、さらに漢民族の研究者と、フィールドワークや会合を重ね、翌年(平成21年度)に開催を予定した、『台湾原住民族の音楽と文化』国際シンポジウム」の準備を進めた。

(2)さらに、新しく生まれる台湾原住民文学の理解のために、下村は台湾原住民文学研究の第一人者である孫大川(プユマ族)の文学評論集『台湾エスニックマイノリティ文学論』を、連携研究者の魚住悦子はパタイ(プユマ族)の長編小説『タマラカウ物語』(上・下2巻)の翻訳に取りかかった。

毎年、9月には訪台し、作品世界の理解のためにフィールド調査を行うべく取り組んだ。

### 2. 研究の目的

本研究は、30年を経た台湾原住民族文学の発展をまとめ、さらに急速に進む言語危機の中で次々と発表される長編小説では、作家たちが何を描き、民族の未来像をどのように見据えているのかを明らかにすることにあつた。

### 3. 研究の方法

30年の間に創造されてきた台湾原住民文学の全体像については、2002年から2009年にかけて翻訳・出版した『台湾原住民文学選』(草風館)全9巻によって理解してきた。その上で、長編小説が次々と生まれるようになった状況については、初年度(2011年度)は、パタイやアオヴィニ・カドゥスガヌ、シャマン・ラポガンらの長編小説を読み、フィールドワークを通じて作品の舞台研究を進めた。

その一方、権利促進運動が進む平埔族(平地に住んだ先住民族でその多くは漢民族に同化している)の研究として、台中を原郷とするパゼツへの研究を進めた。台湾原住民族を考える時、今後は平埔族への研究も行う必要がある。

第二日目(2012年度)は、孫大川氏ら海外研究協力者と共に台湾原住民族の音楽と文化に関する国際シンポジウムを天理大学において開催し、約百人の参加をみた。

(1)毎年の9月に、フィールドワークを実施し、この間、海外研究協力者と連絡を取って会合を開き、意見交換を行った。フィールドワークを実施した場所は、台東のタマラカウなどプユマの集落、霧社事件に関わる清流(川中島)、埔里のカハブ、パポラなどの平埔族、日月潭のサオ族、台中のパゼツへ族、台南のシラヤ族などの調査を精力的に行った。

ただ、実現しなかったのは、シャマン・ラポガンの海洋文学の作品舞台である蘭嶼島再訪であった。台風のために飛行機も船も欠航になったためである。次回を期したい。

訪台の度に意見交換を行った人々：孫大川氏(現、監察院副院長、当時、行政院原住民族委员会主任委員) 浦忠成氏(考試院委員) 鄧相揚氏(霧社事件、平埔族研究者) 林清財氏(民族音楽研究者) 林宜妙氏(山海文化雑誌社) シャマン・ラポガン氏(作家) パタイ氏(作家) アオヴィニ・カドゥスガヌ氏(作家) 王惠珍氏(清華大学) タクン・ワリス氏(セデック族) 郭明正氏(セデック族) 林志興氏(プユマ族、国立台湾史前文化博物館官員)ほか多数。

(2)文献資料調査は、主に台湾では台湾原住民族図書資訊中心、南天書局、日本では東洋文庫、日本近代文学館で行った。また博物館は、台湾では国立台湾史前文化博物館、国立台湾歴史博物館、日本では国立民族学博物館、東京博物館、日本民芸館などの調査を行った。

### 4. 研究成果

〔フィールドワーク関連〕

(1)2011年5月、プユマ族の作家パタイ氏宅に滞在、パタイ氏から歴史小説『笛鶴』『馬鐵路』の執筆について聞き取りを行った。またパタイ氏夫妻の案内で、高雄市内に残る海軍、陸軍、空軍の眷村を見学した。5月21日夜、高雄市で上演されたバレエ劇「千鷲之歌」を鑑賞した。この劇は烏山頭ダムを設計・建設した日本人技師八田與一とその夫人を描いた大型創作バレエ劇である。鑑賞後、原作者鄧相揚氏はじめ、このバレエ劇を上演した青年高級中学の理事長、舞蹈科主任、音楽担当者らと面談し、意見交換を行った。また台湾原住民族音楽研究者の林清財氏と平埔族資料についての情報交換を行った。

(2)2011年8月～9月、以下のフィールドワークを原住民族作家や研究者の案内で実施することができた。高雄市、屏東県でパタイ氏、アオヴィニ・カドゥスガヌ氏から聞き取り調査、台東県で、パタイ氏の作品舞台のタマラカウとその周辺の調査、台南県で、シラヤ族(平埔族)の調査、台中市、埔里で、パゼッヘ族、カハブ族(ともに平埔族)の調査、埔里で、霧社事件研究者の鄧相揚氏、蜂起グループの子孫ワリス・タクン氏、郭明正氏から聞き取り調査を実施した。

(3)2012年10月、パタイ氏の作品『笛鶴 大巴六九部落之大正年間』(2007年)と『馬鐵路 大巴六九部落之大正年間(下)』(2010年)について、最終調査として作品舞台の台東県卑南郷の泰安村を再訪し、作品に描かれた周辺の村や山林を実地調査し、台東市の関連地域も見学することができた。

(4)2013年8月～9月、台東に滞在して、国立台東大学訪問、国立台湾史前文化博物館見学、林志興氏と面談、さらに下賓朗部落(孫大川氏の故郷)、南王部落、鹿野部落を訪ね、プユマ族の老人から聞き取り調査を行う。予定していた、蘭嶼島調査は台風のため実現しなかったが、タオ族の作家、シャマン・ラポガン氏には、台北でインタビューすることができた。

〔ワークショップ、国際シンポジウム開催〕

(5)2013年9月21日に、明治学院大学において、台湾原住民族との交流会発足20周年記念文学フォーラムとして、「台湾原住民族作家はいかにして物語を書くか-長編小説作家、アオヴィニ・カドゥスガヌとパタイの場合-」を開催し、そこで、「翻訳・受容・交流・創造」と題する基調報告を行った。本フォーラムでは、アオヴィニ・カドゥスガヌ氏(ルカイ族)とパタイ氏(プユマ族)の二人の作家を招聘した。

(6)2013年9月24日に、天理大学において

中国文化研究会の主催のもとで、「台湾原住民族作家はいかにして物語を書くか-長編小説作家、アオヴィニ・カドゥスガヌとパタイの場合」と題して、アオヴィニ・カドゥスガヌ氏とパタイ氏の公開講演会を開催した。当日はまたパタイ氏のご母堂が有名な女巫でもあることから、参加者の健康を祈って巫術を施してもらい、巫術の世界を垣間見ることができた。

〔学会、招待講演、一般講演ほか〕

(7)2012年11月10日～11日に、熊本学園大学において日本社会文学学会秋季熊本大会が開催され、そのシンポジウムにタオ族の作家、シャマン・ラポガン氏が招聘され、通訳兼コメンテータを行った。シャマン・ラポガン氏の講演は、「民族運動(反核廃棄物運動)と文学の創作」である。なお、この時の講演原稿は、下村訳で『社会文学』(第38号、2013年)に掲載されている。

(8)講演:本科研執行期間中に、学会からの招待講演が3回、シンポジウム報告1回、民間団体からの講演依頼が3回あり、幅広い研究交流を実現することができた。

研究連携者の魚住悦子は、映画「セデック・バレ」の日本での上映に際して、霧社事件に関する講演の依頼が2回あった。また、パタイ著『タマラカウ物語』に関する講演依頼が2回あり、台湾原住民文学の理解に貢献することができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)(翻訳含む)

下村作次郎、台湾大衆文学の成立をめぐって、(天理大学)中国文化研究、査読無、第30号、2014、1～18頁

下村作次郎訳、シャマン・ラポガン著、民族運動(反核廃棄物運動)と文学の創作、社会文学、査読無、第38号、2013、12～28頁

下村作次郎、フォルモサは僕らの夢だった—台湾人作家の私信から垣間見る日本語文学観とその苦悩—、(天理大学)中国文化研究、査読無、第29号、2013、33～60頁

魚住悦子、鄧相揚著、台湾原住民族の創作歌舞 臺中市青年高級中学のバレエを中心に、『台湾原住民族の音楽と文化』、査読無、草風館、2013、104～119頁

魚住悦子、陳芷凡著『<sup>もと</sup>原』から歌があった  
台湾原住民文学ノ歌謡の対話と文化想像、『台湾原住民族の音楽と文化』、査読無、草風館、2013、149～171頁

魚住悦子、「稗官」パタイの歴史小説 書かれた「正史」と語られる「野史」の間に広がる「無限の想像空間」、『台湾原住民族の音楽と文化』、査読無、草風館、2013、172～184頁

魚住悦子、周婉窈著、高一生と父、そしてあの沈黙させられた時代 追想のうちに、わたしたちの歴史の命題を考える、『台湾原住民族の音楽と文化』、査読無、草風館、2013、305～322頁

魚住悦子、孫大川著、身教大師バリワクス その人格、教養と時代、『台湾原住民族の音楽と文化』、査読無、草風館、2013、396～409頁

下村作次郎、「義人呉鳳」の誕生地・諸羅県(嘉義) - 呉鳳物語の生成 -、(天理大学)中国文化研究、査読無、第28号、2012、1 - 27頁

下村作次郎、翻訳で読む台湾原住民文学、(天理大学)天理台湾学会年報、査読無、第20号、2011、1～17頁

〔学会発表〕(計13件)

下村作次郎、(基調報告)翻訳・受容・交流・創造、台湾原住民族との交流会発足20周年記念文学フォーラム「台湾原住民族作家はいかにして物語を書くか - 長編小説作家、アオヴィニ・カドゥスガヌとパタイの場合 -」、2013年9月21日、明治学院大学

下村作次郎、(講演)平埔族を知る一歩 - シラヤとパゼツへの歴史体験から -、日本と台湾を考える集い、2013年9月7日、大阪市立難波市民学習センター

魚住悦子、(講演)タマラカウへのおさそい、2013年8月9日、岸和田市・浪切ホール

下村作次郎、(招待講演)台湾大衆文学の成立をめぐる、静宜大学台湾文学系と日本語文学系主催「大衆文学と文化国際学術研究会」、2013年5月25日-2013年5月26日、静宜大学任垣楼国際会議庁

魚住悦子、(講演)「霧社事件を語る、大阪・シネヌーヴォ、2013年5月11日

魚住悦子、(講演)原住民族文学の新たなステージ パタイの歴史長編小説を読む大阪・アジアの将来を考える会、2013年4月12日

下村作次郎、(招待講演)フォルモサは僕らの夢だった - 台湾人作家の私信から垣間

見る日本語文学観とその苦悩一、台湾日本語教育学会創立20周年記念大会、2012年12月1日、静宜大学

下村作次郎、(コメンテータ兼通訳)シャマン・ラボガン「民族運動(反核廃棄物運動)と文学の創作」、日本社会文学会秋季熊本大会、2012年11月10日-2012年11月11日、熊本学園大学

魚住悦子、(講演)「霧社事件を考える - 翻訳者の立場から、第26回日本と台湾を考える集い《霧社事件を考える - 舞劇上映と講演》、2012年11月3日、大阪

下村作次郎、(講演)台湾原住民文学、そして生活文化からの世界への発信、日本台湾学生会議関西支部定例会、2012年7月14日、大阪

下村作次郎、(口頭発表)日本「進出」台湾文学の視座より - 帝都を中心にした東アジア日本語文学 -、シンポジウム:「外地」文学の言説的ネットワーク:台湾と満洲の対話、2012年1月21日、国際日本文化研究センター

下村作次郎、(講演)台湾原住民文学の舞台を歩く、日本と台湾を考える集い、2011年12月18日、大阪市立難波市民学習センター講堂

下村作次郎、(招待講演)「義人呉鳳」の誕生地・諸羅県(嘉義) - 呉鳳物語の生成 -、阿里山林業一百年紀年国際研討会、2011年10月14日、国立嘉義大学

〔図書〕(計5件)

下村作次郎・孫大川・林清財・笠原政治編、草風館、台湾原住民族の音楽と文化、2013年、全424頁

下村作次郎訳・孫大川著、草風館、台湾エスニックマイノリティ文学論、2012年、全380頁

天理参考館編・鄧相揚著・下村作次郎・魚住悦子訳、天理大学附属天理参考館、台湾平埔族、生活文化の記憶、2012年、全96頁

魚住悦子訳・パタイ著、草風館、タマラカウ物語(上) 女巫 ディーグワン、2012年、全361頁

魚住悦子訳・パタイ著、草風館、タマラカウ物語(下) 戦士 マテル、2012年、全417頁

〔その他〕(計2件)

下村作次郎、書評：王幼華著・石其琳訳  
『土地と靈魂』 誰が台湾の主人公か、図  
書新聞 3153 号、2014 年 3 月 31 日、1 頁

下村作次郎、戒嚴令解除後の台湾文学を  
読むための新しい研究書 赤松美和子著  
『台湾文学と文学キャンプ』、東方第 386  
号、2013 年 4 月、32 頁～36 頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

下村 作次郎 (SHIMOMURA SAKUJIRO)  
天理大学・国際学部・教授  
研究者番号：20148670

### (3) 連携研究者

魚住 悦子 (UOZUMI ETSUKO)  
天理大学・国際学部・非常勤講師  
研究者番号：20465686